

KTK ひゅうまん 京都

No. 517 2019年12月号

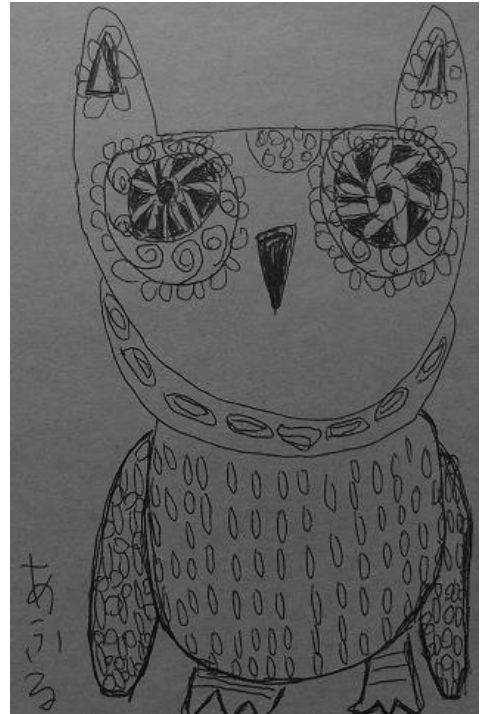
編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P.1 左大文字 つどめ
- P.2 常任委員会から 池添 素
- P.3 「優生思想」を考える 中村 暁
- P.4 車いす視点から社会を斬る 82 矢吹文敏
- P.5 聴覚障害者は訴える 篠田 あゆみ
- P.6 能楽に見る中世の障害者について(試論)(続) 民谷 渉
- P.7 2+2=詩 赤富士文兼
- P.8 尊厳ある暮らしの保障 中野 加奈子
- P.9 背中を伸ばしてひとと一緒に歩む 58 すぎな
- P.10 視覚障害者のサークルめぐり 96 一谷 孝
- P.11 知っ得情報 松本 美津男
- P.12 ありがとうございます・催し案内

左大文字

先月の「介護の日」に話をしてきたこと▲「介護者本人の人生の支援」というサブタイトルが付いた『家族介護者支援マニュアル』(2018年3月)は、厚労省が市長村や包括支援センターに向けて作成したものである。本文には次のような指摘もある。家族を「要介護者の家族介護力」として支援するだけでなく、「家族介護者の人生」の質の向上に対しても支援する視点を持つこと。そして家族介護者も自分らしい人生や安心した生活を送れるよう相談支援活動に取り組むこと▲私たちがも同様の主張をしてきたが、これは間違いなく厚労省の文書だ。家族介護者のアセメント以外は具体的に乏しいが、行政姿勢としての新しい到達点ではある。マニュアル作成委員にはこれまで家族介護者支援の実践や研究に関与してきた方々が幾人も参画しているが、その尽力も影響しているに違いない▲ただ、ソーシャルワークの具体的展開は、カウンセリングとは違って支援者・機関が問題解決に向けて投入し得る社会資源の存在があるかどうかは決定的である。家族介護者の抱える課題に向き合う相談支援の精神に相応しい社会資源の創出に踏み出すのかがどうか、だ。「働かせ方」の抜本的改善と新しい社会サービスの開発だ。家族介護者支援に資する実効性ある社会資源はまだない▲支援を相談援助場面に封じ込めてしまっただけは本来転倒だ。相談される側もする側も、漂流し難破するだけである。

みみずく



「みみずく」
渡辺あふる

常任委員会から

〈まだ40年!〉

それは、ちよつと前のこと。今では当たり前になっていて、障害の重い子どもたちにも教育を受ける権利があるということ、はずか40年前は夢のまた夢でした。就学年齢を迎えても、就学猶予・免除で教育権は全ての子どもに保障はされていませんでした。

そのころ、与謝の海では、青木嗣夫先生を先頭に、地域の子ども達への障害児教育を受ける権利に声をあげる力強い教育権保障の運動がありました。京都府に対して養護学校の建設を迫り、実現させます。京都府立与謝の海養護学校です。「学校に子どもを合わせるのではなく、子どもに合った学校を」というスローガンで、重度の障害のある

子ども達も受け入れました。また、教育年限を超過している人たちにも、教育を保障する青年期教育部が設置されました。そしてそれは京都府内全域に広がっていきます。

「どんなに障害の重い子どもにも教育を」という願いは全国に広がり、養護学校義務制が行されたのが40年前です。私が勤めていた施設の子どもも、朝

学校のバスが迎えに来て、昼間は学校で過ごし、施設に戻る生活が始まりました。その場に立ち会えたことがうれしい思い出です。11月25日の午後参議院会館で、「義務制40年 いまこそ障害児の教育権を問う全国集会」が開催されました。養護学校義務制の今を問う内容で、歴史を

踏まえて、今障害児教育が直面する課題も提起されました。すべての子どもに教育を保障する思想は、優性思想と対峙する考

え方でもあると話されました。教育のもつ障害のある子どもへの影響力の大きさを再認識し、あらためて、どんなに重い障害のある子どもも発達していくことを確信しました。この集会在、障全協、全障研、きようされん、全教の共同企画であったこと

も、今後の運動に大きな力となりました。

〈障全協53回全国集会〉

11月24日に開催された全国集会是全国からの参加で、東京で開催されました。記念講演は『ハンセン病問題から「人間の尊厳」を考える』で、神谷誠人さん（鳥取非入所者遺族国賠訴訟・ハンセン病家族訴訟弁護団）

が話し、午後は10の分科会で話し合いました。翌日は厚生労働省などとの交渉があり、当事者

や現場の声を届けてきました。障害者福祉の課題は満載です。

〈ありがとうございました〉

生活保護裁判をわかりやすく伝えてほしいとの要望に応えて、忙しい中連載を引き受けてくださった中野加奈子さん（大谷大学・支援する会事務局長）の連載が今号で完結します。裁判はまだ続きません。傍聴は最大の支援、引き続き目が離せません。

中村暁さんには、優生保護法とはいったい何だったのか？というとても難しい課題に挑戦していただき、膨大な資料を読み込み、読者に伝えてくださいました。考える材料をたくさんいただき、今号で終了します。宿題をもらった気分ですが、引き続き向き合わなければならぬテーマです。お二人に感謝を申し上げます。

池添素（京障連事務局長）

「優生思想」を考える

ここまで、4度開催して中断して目を箇条書きにして、連載を終えまいる「小さな研究会」での議論を紹介す。ここまでになつたく触れていないテーマが多いのですが、一生の宿題として。

問題には蓋を開けてみるといくつもの問題として。
 ● 優生保護法に基づく優生手術の実相
 検証すべき論点が浮かび上がり、足がすくんでしまった、というのが私(第一条)この法律は、優生上の見地から不良な子孫の出生を防止すると
 ● 戦後、経済成長に役立つ人間・役

の正直な気持ちです。
 突き詰めるなら、前号に書いたとおり、(個)の尊重よりも全体が優先されることがあり得るといふ「錯覚」が、優生思想の蔓延を許す重大な要素である、ということが今の私の到達点です。ですが、(個)と(全体)も簡単に分けられるものではないのも事実です。自分の子には「健康」に生まれ、育つてほしい、という願いは、確かに(個)の感情です。しかし、その感情は(個)の実際に生きる世界の在り方、政治、制度といったものに深く影響されているに違いないからです。優生思想を考えることは、現実社会の中で私がどんな思想を自らの中に打ち立てて、どのよう

に生きるかを問いかけるのです。
 ● 誰が、なぜ、優生手術を推進したのか
 最後に、今後も検証し続けたい項

・ 手術件数を競った都道府県

・ 京都府 137件 (同上)

● なぜ、優生保護法は制定されたか
 ・ 戦後の人口増大と食糧難を背景に

・ マルサス人口論やサンガー女史らの「産児調節運動(バースコントロール運動)」が背景

・ 日本におけるノーマライゼーション思想の立ち遅れ。精神疾患、発達障害への恐れ、無理解

・ 母体保護と優生保護の混在する法

・ 母体保護と優生保護の混在する法

● 新たな医療倫理をめぐって
 ・ 透析医療をめぐる事件や言説

・ ひきこもり「一人で死ぬ」の声

● 出生前診断
 ・ デザイナーズ・ベビー

・ 尊厳死、安楽死をめぐる議論

・ 現在、「財源論」と「価値無き生命」

● 医学界・学会の役割と自己検証
 ・ 日本健康学会(旧民族衛生学会)、日本医学会連合会(母体保護法(旧優生保護法)の検証のための検討会、日本精神神経学会、日本衛生学会、日本産婦人科医学会、日本人類遺伝学会、日本社会学会、日本生命倫理学会等は今、何を語っているか

車いす視点から社会を斬る!

矢吹 文敏 (日本自立生活センター)

「儲けものの命Ⅱ」

昨年の暮れ、胆嚢炎の手術によつて命拾いをして現在儲けものの人生を歩んでいることをお伝えした。あれから一年。その儲けものの人生を私はどのような使つてきたのだろうか。障害者の差別を無くすために、と言

急激に腕力が落ち、視力が衰え、思考力の回転も鈍り、活舌も悪くなり講演もままならない自分を感じながら、酸素呼吸の数値も悪くなり、持続力も低迷し始めた。

いなながら、せつかくの貴重な時間を、実は自分のためにしか使つてこなかったのではないだろうか。

運動的には極めて不確かな世界のフェイสบックという狭い空間の中で、愚痴をこぼすようになっていた。

☆

例えば一月二十日。「思ったことを自由に言うのを言論の自由」と言うらしい。それなら、思

「会議、会議……」と言いながら、自分の楽しみだけを選んできたのではないだろうか。

稚園の子どもが考えるようなことを今になって考えている私。

三月には「下から目線Ⅱ車いす視点から社会を斬るⅡ」の出版にあたっては、贅沢なことに

同じ日。「世の中は十分に良く

多くの方々によつて出版記念会を催して頂いた。

バカみたい!

はやだれも考えられなではないか。だから覇権思想者は宇宙軍事を考えたりする。」
三月十六日。「グルメ番組で、とにかく「おいしい」が連発される。それは良いとしても、お値段は?と聞けば、2,200円とのこと。この値段でまずか

駄遣いもいけませんよ! と丁寧に教えました。すると子どもは「なーんだ、簡単だよ。総理大臣や官僚のオジサンたちと反対のことをやれば良いんですよ?」
五月十五日。戦争を知らないお坊ちゃん議員が除名処分を受けたにもかかわらず、残した仕事があるから議員は続けるとほざいている。もう貴方には議員としての仕事はない。国民をバカにするのもいい加減にしろ! 国会はゲームの遊び場では無い。
同日。もはや野党は、相手が何か失敗をしたらそこを狙って批判するしかない。まさに野党もお坊ちゃん議員なのだ。このくらいしか言えない私もお坊ちゃんなのだ。多分? ……
☆
こんなことばかりブツブツ言いながら2019年も間もなく終わる。2020年は改めて「花見」をやるのだろうか?

聴覚障害者は訴える

映画をみるのが好きだ。ホラー以外アニメもジャンルを問わず字幕付きなら映画をみる。私の主人とも唯一共通の趣味をもち、以前、T O H O シネマズ二条の近所に住んでいた時は、土曜の深夜にコンビニに行く感覚で通っていた。

☆

私が初めてみた映画は、小学校の行事で大竹しのぶ出演の『ああ野麦峠』（1979年）だった。少女たちが野麦峠を超えて長野県の養蚕業に働きにでた女工の話だと配布のプリントで知らされたが、映画自体が暗く出演者の顔も怖かったし、目的さえわからなかった。ホラー以外アニメもジャンルを問わず映画をよくみる。映画がおもしろいと思えたのは、中学3年の時。ダスティン・ホフマン出演

の『クレイマー・クレイマー』（1980年）だった。突然の離婚、小さな息子の育児や家事に追われるパパの奮闘記がテーマで、字幕付きでストリーの流れが明確的につかめ、納得できて私なりに心がふるえた。「こんなセリフやったのか」と、七条京阪の家から四条河原町の映画館まで歩いて30分。帰りは、友達とパンフレットを眺めながら、セリフを真似しワンシーンの再現を面白おかしくやりながら歩いて帰った。

ファンタジーSF世界の『ET』（1982年）では、少年とその妹の言葉をまねるETの真似をして新鮮さを味わった。プロのダンサーを目指す女性の『フラッシュダンス』、ダスティ・ホフマン出演のコメディ映

画『トツツイー』（1983年）、精神疾患をもつ兄と欲望をもつ弟の心を通わせる『レインマン』（1989年）など人権、社会的問題をとらえたドキュメンタリー映画、夢と希望を実現する映画をよくみた。

トム・クルーズが出演した『トップガン』はあまり興味がなかったが、『レインマン』をみてから彼の出演する映画に関心をもつようになった。スパイ映画『ミッ

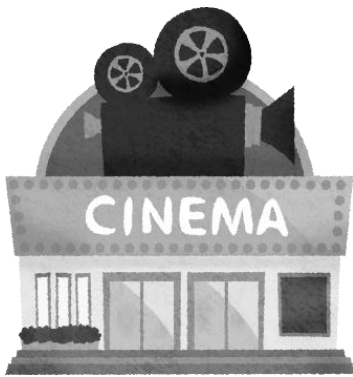
ションイン・ポツシブル』の全編は全て映画館でみている。誰もが思いつかないストーリー、ごまかしのない演技、見終わったあとのたまらない思いはしばらく胸に残る。

☆

話が変わるが、最近、映画のいろいろな場面で普通に手話が見られるようになった。テレビのBSで、『ポーターライン ソルジャーズ・デイ』（2018年）をみた。主人公のCIAの特別捜査官がテロ犯人の女の子を守る内容で、後半を過ぎたときに突然手話の会話が出てきた！主人公のこどもがろう児と設定になっており、滑らかな手話表現ぶりで違和感がなかった。映画界が、手話を特別視ではなく日常生活にある当たり前のコミュニケーションととらえていると感じ、うれしく思っている。

篠田 あゆみ

（京都府聴覚障害者協会理事） 5



能楽に見える中世の 障害者について（試論）（続）

弁護士・民谷渉

この秋、香里能楽堂で開催された能の会で、和泉流狂言「井籥」（どぶかつちり）を拝見しました。主役である勾当は野村萬齋で、菊市に野村太一郎、男に深田博治という配役でした。野村萬齋師のオープニングトークによれば、障害者を笑い物にするというテーマがあるためか、近年ほとんど出ない曲だということですので。その中で、野村萬齋師が2020年パラリンピックの開閉式式の総合演出を務めている経験から、障害のある人もない人も社会で生活するという共生社会の観点からも、当時の盲人社会を描く曲を選んだ、というこのようです。井籥の他にも、「どぶ」「かつちり」という言葉にも、盲人を主役にした「座頭物」という一連の曲があり、猿

ところに、晴眼者の男が通りがかり、勾当になりすまして、勝手に菊市に背負われて川を渡ってしまいます。さらに、その後、勾当と菊市が酒を飲もうとしたときにも、男が横から酒を全部飲んでしまいます。このように、散々に二人をからかった後、男は面白かったと言って帰ってきます。これだけを見ると、障害者を馬鹿にして笑いを取るだけの話に見えますが、おそらく、この曲のテーマはそれだけではなく、前にも指摘したように、江戸時代以降、能と狂言は、為政者である江戸幕府や藩のお抱えとなり、市民のために演じる機会是比较的少なく、まずは、雇用主である將軍や藩主のために演じたのです。そうした場で、迷惑を受けないながらも力強く社会生活を送る盲人を描くということは、為政者に、共生社会を見せていた、という解釈はできませんでしょうか。この曲では、「勾当」「座頭」などという言葉が出てきますが、いづれも、当時の盲人社会における地位を指します。少なくとも室町期以降には、盲人は独特の「座」を構成しており、当時の政権から、様々な特権を与えられていました。役職は上から、検校、別当、勾当、座頭という順番で、勾当は下から2番目になりますが、そのような座に入れない人も多く、盲人の中ではある程度上の地位でした。ところで、勾当と菊市は、二人とも杖を持っているのですが、現代のタッチテクニクと同じように、1メートルほど先の2点をリズムカルについて、先の情報を得るという方法を使っていました。能・狂言にしては珍しいほどに写実的な型です。狂言にせよ能にせよ、作られた当時の文化や社会の状況を反映しており、過去の文化等を学ぶのに大変参考になります。

2+2=詩

「観光地の音」

残暑も厳しい夏の終わり、ある古寺を訪れた。

静寂が似合うであろう場所なのに

聞こえてくるのは騒音ばかり。

ガイドブックを片手に行きかう観光客の声と足音。

街の中と変わらない。

静けさどころか季節の音まで押しつけて、

季節感なしの騒々しさだけが、

我が物顔に闊歩している。

なんとも腹立たしいことと、

こちらまでイライラしてくるそんな時、

その騒音がふと途切れた。

それはほんのわずかの間で、

ほんの一瞬のことだけど、

にぎやかなセミの合唱。

ささやくような葉っぱのざわめき。

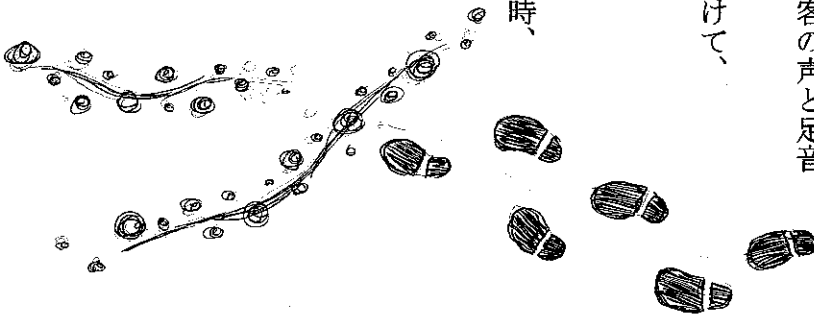
流れゆく小川の水音。

暑気を掃う涼やかな風音。

そんな夏の音を聞くには十分で、

気づけば気持ちもこの空のように、

晴れ渡ったものになっていた。



「一呼吸のお茶」

一月に一度通りかかる街角で

漂ってくるのは煎った茶葉の香

息苦しい夏には一時暑さを忘れさせてくれ

凍える冬には少し頬を緩ませてくれる

季節が移り変わっても変わることなく

香ばしく薫るいい匂い

「賞味期限」

終わりのことを考えるたびに、

気持ちが悪えてたまらない。

自分の終わりはいつ来るのか。

大事な人の終わりはいつ来るのか。

時間も場所もその形も、

まるで分らないのが恐ろしい。

ふと見た缶の側面に、

賞味期限が記されていた。

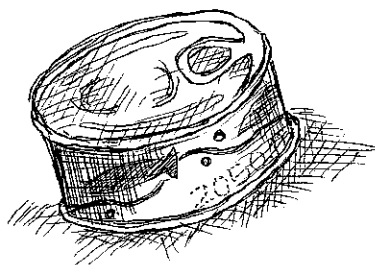
命の賞味期限があるのなら、

缶詰めの刻印のように見られたなら、

こんな恐怖ともおさらばできるのだろうか。

それとも終わる日を指折り数えて、

頭を抱えて震えるのだろうか。



尊厳ある暮らしの保障

—生活保護制度のイロハと明日(終)

中野加奈子(大谷大学准教授)

(12) 尊厳ある暮らし

の保障とは

す。

これまで説明してきたように、

生活保護の利用者は厳しい生活

保護基準の範囲の暮らしの中



学生たちに将来どんな生活がしたいのか?と尋ねると「残業のない働き方」「休日には友人や家族と楽しく過ごしたい」「趣味を充実させたい」「不安なく、子育て・介護をしたい」「ゆつくり本を読んだり、映画を見たりしたい」「ボランティアに参加したい」という答えが聞こえてきます。仕事や家庭で役割を持ち、

保護基準の範囲の暮らしの中で、社会からのバッシングに怯えながら、家計を切り詰め社会の中で息をひそめるように暮らしを過ごしています。こうした状況を改善したい。生活保護の制度を変えたい。「ボランティアに参加したい」「尊厳ある暮らし」を実現させたい、と私は強く思います。

余裕を持って家事や育児を楽しみたい。人と繋がり、支え支えたい。人との繋がりが、支え支えたい。尊厳ある暮らし、というものは「こんなふうに生活したい」と私たちがイメージする暮らしなのだろう、と思いま

「あの人たち」を考える姿勢が、社会の中で生きていくのだから、最も苦しい状況の中で生きる人たちの、苦しみそのものに思いを馳せることは重要です。でも「あの人たち」と捉える立場から考えている時の「私」は、いったい何者なのでしょう。1年間ありがとうございました。

☆

の利用者さん、ホームレスの人、障害のある人、子育てをしている人、介護をしている人、外国籍の人は含まれているのでしょうか。

それから、苦しい思いをしている人ほど、願いや望みを語ることに躊躇しています。思いを一つにしていくためには、誰もが語り、誰もが耳を傾ける関係づくりが大切だと思います。生活保護基準引き下げに反対する裁判が始まって5年。原告の方達は「苦しいんだ」「ただ、普通に暮らしたいんだ」と語り続けてきました。皆が語り合う中で、

「あの人たち」を考えるときは、大切なのは、社会の中の特定の人の暮らしだけに焦点を当ててではなく、私たち自身の「尊厳ある暮らし」を考えるとき、

背中を伸ばつてついでに一緒に歩む

すぎな（訪問看護師）

57 ギフト

年末になると、何かと贈り物をする機会が増えると思う。お世話になった方へのお歳暮、クリスマスプレゼントなど。そして少し気が早いけれど、お年玉を準備する人がいるかもしれない。私たち訪問看護師も、日ごろのケアの中でも頂き物が多い月でもある。

☆

数日前の携帯当番で、久しぶりの大当たりがあった。当たりとは、普段全くと言ってよいほどコールがない緊急用の携帯電話が、何回も鳴って呼び出しでバタバタ忙しいことである。前日の夜遅くに、終末期療養者さんのご家族からのコールで訪問し、旅立たれるのをご家族とともに見送っているちょうどそ

の時に、またほかの方から体調不良のコールがあり、立て続けに訪問。帰ったら翌日になって

ないけれど、断れなかった。別の日。小さな弟さんに訪問していたけれど、そのお姉ちゃんのことでも気がかりで、訪問するたびに声をかけてお話ししていたら、自分のおやつチョコレートと「おひとつどうぞ」と渡してくれた。療養している子供さんのケアでは、その兄弟の思いが大人たちの思惑の中でスルーされないようにと思う。

私たち訪問看護師は、療養されている方やご家族から、「物」をいただくばかりではなく、生き様や語りの中からたくさん

ギフトをいただいている。今年の初め、冷たい雨が降りしきる中お空へ見送ったあの子から、命ある限り精一杯生きることのすばらしさを。ご家族からは、愛にあふれたケアが奇跡を起こすことを教えていただいた。認知症の高齢の父の最期の時期に、本人の意向を大事に

寄り添い続けたご家族からは、ケアスタッフが何でも手を出してしまうのではなく、家族の成長を信じて見守ることで、家族も変化できることを学ばせていただいた。

☆

今年の12月は、いつものバタバタと忙しいばかりの今日から明日ではなく、関わらせていただいた方がたからの命のメッセージを、振り返って心に刻み込む1年の締めくくりにしたいと思う。



視覚障害者の

サークルめぐり(96)

クラブ員の思い

詩吟サロンは、毎月第3水曜日、午後から京都ライトハウス研修室で活動しています。

今回の執筆者は、家庭環境からも詩吟に興味をもち、点字の勉強をしておられた晴眼者です。詩吟のサロン活動に協力してともに詩吟を楽しめたらと、10年ほど前から積極的に活動しておられます。

心に沁み、

和を感じる詩吟サロン

(保田登志子)

私は晴眼者です。視覚障害者になられたお知り合いのFさんに誘っていただいて、詩吟サロンに参加してもう10年くらいになります。父が詩吟を習って吟じていたのを聞いていましたので、懐かしい気持ちで見学に行きました。

私の性に合っているのか今も続いています。

娘の勧めで点字を習っていたこともあって、入会した時の自己紹介で、「点字のお手伝いもできます」と紹介できたことを嬉しく思うとともに、視覚障害者の方々に協力できることを強く自覚しました。漢字ばかりが羅列してある漢詩や普通墨字の短歌などを

点字に直し、視覚障害者が点字を読んで吟詠されるのを見て、点字の力を一層つけなければならぬということ強く感じたものです。

詩吟サロンの活動は、月に一度ですから負担がなく良いと思います。サロン活動で練習の様子を

録音し、家で時間をかけて復習します。毎月休まないように楽しみに参加しています。普段は大きな声を出すこともないのですが、サロン活動や家では恥ずかしげもなく、ここぞとばかりに声をあげてストレス解消にもなっています。子どもの頃から喉が弱かった

ため、風邪をひいて詠えなかった

のですが、今は喉も丈夫になりました。詩吟サロンは現在、視覚障害者の方4名、晴眼者3名、指導者のY先生、ルームボランティアと視覚障害者のガイドヘルパーの方を合わせて10数名で、和やかな雰囲気の中で、楽しく練習しています。

先ず、発声練習から始まり、前回習った詩吟の復習をします。後半は、新しい詩吟を一節ずつ先生が丁寧に教えてくださいます。詩吟は、漢詩や短歌に節をつけて吟じるものですが、歴史上の人物を詠ったものや、その人が創ったものなど色々あるので興味が倍増します。

全ての詩吟が素晴らしいのですが、「坂本龍馬を思う」が好きです。河野天籟(こうのてんらい)という明治の人の作品で、龍馬の志が維新を成し遂げたという詩に感動し、龍馬の功績を心から讃えたいと思います。「君の依って成る」と

す。

ライトハウスまつりは、毎年10月末の日曜日に行われ、1年間の成果を皆さんの前で披露します。人前で吟ずることなどは、今まで経験のない私ですが、発表して楽しく、心強く自信を得ることができました。ライトハウスまつりが終わると、歴史の詳しいOさんが詩吟サロンの活動内容を考えて再スタートします。ご一緒に吟じましょう。



知っ得情報

図書等の在宅貸出

松本 美津男

主に京都府南部の図書館で、委託業者や職員などが家に訪れて、貸出・返却を実施している図書館があります。ここでは京都市の図書館が無料で実施している内容を簡単に紹介します。

〈対象者〉京都市内に在住し次の要件をすべて満たす人

- (1) 身体障害者手帳1級から4級に該当する人又はこれに準じると認められる人
 - (2) 障害のため図書館へ行くことが困難な人
 - (3) 本人又は補助者により、委託業者と直接受渡しができる人
- 〈登録手続き〉次のいずれかの方法で申し込む。代理人可。
- (1) 電話又は手紙で京都市中央図書館へ申し込む。
 - (2) 最寄りの京都市図書館へ手帳を持って行き申し込む。

〈貸出点数と貸出期間〉

20点まで、内、視聴覚資料は4点まで借りることができ、貸出期間は図書館での貸出処理の日から1ヵ月。原則として1回限り貸出延長可(例外あり)。

〈問い合わせ先〉

京都市中央図書館

075-802-3133

FAX:075-812-5816

あなたもぜひ
仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ(資格不要)募集中
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかけた、
無差別平等の医療と
福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

■年会費 松岡佳永子

■ちひろカレンダー 齊藤善子 40部

■障全協署名

きょうされん京都支部 388筆

(敬称略 2019/12/5)

■無言、ではられない 日時：2020年1月1日(水)正午～1時 場所：北野白梅町嵐電駅前広場 内容：政権の政策への批判。スピーチ、音楽、署名、チラシ配布何でも。問合せ：無言宣伝(465-5451)

■障害者権利条約・基本合意・骨格提言の実現めざす基本合意10年全国集会

日時：2020年1月7日(火)13:00～16:30 場所：国会議員会館 内容：2010年1月、国は、障害者自立支援法が、障害者・家族の尊厳を深く傷つけたことを認め、法の廃止と新法制定を確約し、そこにおいては「障害福祉施策の充実は、憲法等に基づく障害者の基本的人権の行使を支援するものであることを基本とする」と約束した。あれから10年、国が約束したことの履行状況を確認し、今後の運動を考える集会。映像「訴訟団の運動をふり返る映像」上映、連帯あいさつ、開会あいさつ(竹下義樹弁護士団団長)、基調講演「障害者福祉における基本合意の意義」佐藤久夫さん(日本社会事業大学名誉教授・元推進会議総合福祉部会長)、弁護士報告「違憲訴訟・基本合意・定期協議の意義」藤岡毅事務局長(障害者自立支援法違憲訴訟弁護士団)など。問合せ：京障連(465-4130)

■企画展「焼き物からよむ平安時代—発掘でみえてきた食器・酒造り・饗宴」

日時：～1月19日(日) 場所：京都市考古資料館 内容：京都や京文化を知るうえ

で、平安時代はその出発点というべき特別な時代だ。平安時代の面影は京都に残っているが、地中にうまっている焼き物のカケラが、歴史や文化を理解するうえで多くのことを教えてくれる。土器や陶器の研究が大きく進み、平安時代の日常生活や文化について新しいことがわかりつつある。展示では、平安時代の陶芸、窯業技術や焼き物の特徴について紹介する。問合せ：京都市考古資料館(432-3245)

■第45回 視覚障害者福祉啓発事業「あい・らぶ・ふえあ」～見えない・見えにくいを知ろう! 日時：2020年2月5日(水)～8日(土) 場所：大丸京都店6階イベントホール 内容：「見えない・見えにくいを知ろう」というテーマで、一般市民に視覚障害者の生活を分かりやすく学んでいただけるように、企画している。内容：①体験(点字・手引き体験、マッサージ施術体験、視覚障害者スポーツを知る・盲導犬とふれあう・便利グッズ紹介)②ステージ発表③小学生絵画コンクール④福祉事業所の手作り商品や盲導犬グッズの販売、ボランティア活動紹介 問合せ：462-2414

■驚異のクリエイションパワー 特別出品：高知・竹林寺の襖絵 日時：～2020年3月29日(日) 場所：京都府立堂本印象美術館 内容：印象は、1950年代半ばからは日本画家による抽象画という今までに見られなかった前衛的な表現を国内外で次々と発表し、画壇に鮮やかな足跡を残した。本展では、63年に描かれた高知・竹林寺の襖絵を約14年ぶりに特別公開。完全な抽象表現で彩られた豪快な襖絵は、日本の障壁画史においても画期的な作品だ。入館料：510円 問合せ：京都府立堂本印象美術館(463-0007)